

第1回新市将来構想策定小委員会

議 事 録

第1回新市将来構想策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成15年3月11日(火) 午後6時30分
- ・場 所 長岡市役所大会議室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	山本 俊一	外山 康男
佐々木保男	熊倉 幸男	米持 昭次	坂牧 宇一郎
長谷川 孝	朝日 由香	村上 雅紀	北村 公
池田 守明	石黒 貞夫	小池 進	高野 徳義
野田 幹男			

以上 17名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

事務局(北谷事務局長)

定刻となりましたので、ただ今より長岡地域任意合併協議会第1回新市将来構想策定小委員会を開催させていただきます。なお、本日の小委員会は委員17名でございますが、2人程まだお見えになっていませんがまもなくこちらに到着するという連絡をいただいております。17名のご出席ということで、小委員会規定により会議が成立していることをご報告いたします。また、通常の協議会同様に、公開によって行わせていただきますので、その点ご了解願います。それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきますので、はじめに、開会にあたりまして任意合併協議会の森民夫会長よりごあいさつを申し上げます。

森民夫協議会長

はい、本日はほとんどの市町村が議会開催中とあって大変多忙な中であるところですが、第1回新市将来構想策定小委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。ご承知のとおり任意の合併協議会が既に2回開催されており、明日第3回目を迎えるわけですが、とかく合併の議論になると合併するとどうなるのかという受身の議論が多いわけですが、私としては、皆さま方をお願いしたいことは、合併したらどうなるのかではなく合併してどうするかという前向きな気持ちで、この中越地域の発展を図るために何が成し得るのか、またどういう風にすべきなのかの観点から議論していただければ大変ありがたいと感じています。この新市将来構想策定が、任意合併協議会の最大の一つの焦点となるのではないかと思います。30万都市に希望を抱いて実現すべき姿を描きつつ、かつ、関係市町村住民の皆さんが納得できる構想をつくっていかねばならないと考えているわけですが、そういう意味では、委員の皆さまには大変なご苦労と責任をお願いするわけですが、重大な任務でございますが、是非とも大変関心も集まっております重要な任務を、全力を挙げて遂行していただきたく心からお願い申し上げます。協議会会長といたしまして、魅力ある将来構想ができますよう心から期待いたしまして挨拶とさせていただきます。なお、本日私は公務があるため、これで失礼させていただきます。よろしく申し上げます。

事務局(北谷事務局長)

ありがとうございました。それでは、はじめにお手元の資料について、ご確認いただきたいと思っております。資料ナンバーでございますが、資料NO.1、資料NO.2、資料NO.3-1、3-2以下4、5、6、7、8でございます。お揃いでしょうか。お揃いの方ですので、続きまして大変僭越ながら私の方から委員の皆さまをご紹介させていただきますので、資料NO.1をご覧ください。恐れ入りますがお名前を読み上げられた方は、その

場にてご起立くださいますようお願いいたします。

長岡市助役二澤和夫様、長岡市住民代表朝日由香様、見附市助役山本俊一様、見附市住民代表村上雅紀様、栃尾市総務課長外山康男様、栃尾市住民代表北村公様、中之島町助役佐々木保男様、中之島町住民代表池田守明様、越路町助役熊倉幸男様、三島町助役米持昭次様、三島町住民代表小池進様、山古志村助役坂牧宇一郎様、山古志村住民代表高野徳義様、小国町助役長谷川孝様、小国町議会代表で特別委員会委員長野田幹男様、最後になりましたが学識経験者として豊口長岡造形大学理事長・学長様、今お見えになりましたが、越路町議会代表石黒貞夫様でございます。以上17名でございます。

以上で委員紹介を終了させていただきます。

続きまして次第の3番目にあります新市将来構想策定にあたってについてですが、これについて事務局よりご説明いたします。

事務局(高橋次長)

それでは、説明をさせていただきますが、説明に入ります前に、本来なら協議会小委員会の資料を事前に配布すべきところでしたが、当日となりまして誠に申し訳ありませんでした。今後出来る限り事前に資料を配布したいと思いますのでよろしく願います。それでは3番の長岡地域における新市将来構想策定にあたって(1)小委員会の役割について説明させていただきます。恐縮ですが、座って説明させていただきます。お手元にお配りしてあります資料NO.2長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会設置要領で説明させていただきます。役割でございますが、この要領4の内容を読みますが、8市町村が合併したと想定し、長岡地域の発展と今を生きる子供たちの未来のためにも何が必要かを検討していき、目指すべきまちづくりの方向を定めた将来構想の素案を作成するということでもあります。それから6の委員会をご覧ください。小委員会は随時開催するものとする。また、小委員会での協議結果については、直近の任意合併協議会において報告するとともに、小委員会で作成した基本理念や将来都市像などを任意合併協議会に諮るものとする。これが小委員会の役割でございます。続きまして、(2)策定の考え方と手法について事務局から説明させていただきます。恐縮ですが、資料NO.3-1と右肩に書いてあるものをお出してください。これは、新市将来構想策定にあつたての事務局として検討したことの整理したものをお話させていただきます。まず最初に、1新市将来構想策定の目的ということになります。これは地域共通の願いは、地域の人々がいかに幸せになるかということであること、それから、合併を前提とした場合の新市の中に、真に地域の人々の幸せのために、ど

んな地域像が描けるか、これらが目的だと事務局では整理しました。2番でございますが、新市将来構想策定の視点でございますが、他の協議会が策定した将来構想を事務局なりに分析検討いたしまして、その中で留意点をいくつか課題として捉えて掲げてあります。最初のポチですが、名前を替えるとどこの市にあてはまるものですが、一般的なものだけを策定しており、地域性のないものをつくられているものがなかにはあるということです。それから、施設整備が合併の目的になっていると思われるもの、つまり施設整備の観点ばかり議論されており全体での議論がされていないもの。3つ目でございますが、各市町の総合計画の単なる寄せ集めで水ぶくれしているもの、これは、それぞれの市町村総合計画を否定するものではありません。私たちが合併していこうという時に単純な寄せ集めではいけないということです。次でございますが、現状と課題分析だけに重点がおかれ、住民の思いがないもの、住民意思がない構想になっているもの。次でございますが、構想の策定の過程が不明確のもの。最後ではございますが、今何をしなければいけないかだけに力点がおかれ、将来構想の考え方が弱いものとなっているもの。それらのことを私たちは課題として捉えました。それから、策定にあたっての留意点・視点というわけですが、(2)でございます。今更事務局の方から言うのもちょっとではございますが、市町村合併は50年に1度の歴史的局面であること。(3)でございますが、当然のことながら、私たち地域の歴史は過去・現在・未来へと続いていくものであること。1枚おめくりください。2ページ目ではございますが、1番下の枠で囲ったところになりますが、新市将来構想策定の2つの視点です。1つ目は、地域の人々の思いが活かされる構想であること。2つ目は、目標と夢を持ち続けられ、未来でも活用できる将来構想にしたいこと。例えば、次の時代の人たちが地域づくりに活かされる構想にしていきたいという考えに基づいてのことです。これら課題を、事務局で整理しているわけですが、先ほど説明した課題をふまえ、現時点で事務局と業務を委託してあるコンサルタントで、新市将来構想を策定する際の基本的考え方についてお話しさせていただきたいと思っております。別冊として、資料No.3-2少し厚いものありますが、この部分について基本点な考え方としてご説明させていただきますが、説明のほうは恐縮ですが委託業者からさせていただきます。

コンサルタント(金子)

ただいまご紹介いただきました新市将来構想策定のお手伝いさせていただきます(株)建設技術研究所・UFJ総合研究所共同体の金子と申します。座って説明させていただきます。ただいま事務局から説明されました長岡地域の将来構想策定の考え方の詳細についてご説明させていただきます。今回提案します作成の手法は、地域づくり

の計画を、いかに住民の方々の心や気持ちを汲み上げて取り入れたものにするかということに重点を置いて考えたものです。これまでに、事務局並びに私たちが検討した結果、これから提案する手法は、これからの時代に適切なひとつの手法ではないかというもので、委員の皆さまからご意見をいただき、引き続き検討していきたいと考えております。その概略を説明させていただきたいと思っております。資料の方と画面の方とになりますが、画面の方は資料の要約したものを示しておりますので、資料のページで説明させていただきます。1ページのところの長岡地域における新市将来構想策定における課題ということで、先ほども説明がありましたが、他のところにある構想の問題としてどういうものがあるかをまとめたものであります。1番は、今までいろんなことが言われていますが、合併の利点とは、行財政改革、専門職員の配置が必要になってくることにあります。そういうことはたくさんありますが、今の時代を改善していくという改善効果、改善手段ということであって、地域の住民がひとつになっていこうという動機となっていないと考えています。それからこの将来構想は、建設計画、後々は基盤整備計画というものづくりとなっていくわけですが、将来構想自体は、地域での心の一体化を狙った計画です。近年いろいろな施設整備が目的化してきたわけですが、そういうものに対して心は一体何を達成するものなのかを考え、そういうものを住民に明示する必要性のある計画にしていきたいと考えています。3番に、市町村合併は命令ではないことの理解。自立の自覚を国がお願いしていることを考えると、やはりこの地域の方々が主体的にどうしていくか考える必要があります。それから4番目の将来フレームという言葉がありますが、これは実体の運営を助ける目安としては重要ですが、数値的なものだけで将来は決まらないということです。当たっている数値だとしても予言ではないということです。人間は、未来は自分で作っていくものと考えていますので、そういう可能性を取り入れた計画でなければいけないと考えます。それから2番目ですが、長岡地域の空間上から見た課題考察ということで、地図を見てもらえば一目瞭然ですが、やはり長岡市が位置的にも中心にあり、人口的にも非常に多くいろんな点で長岡市が中心となっています。その周りを囲む市町村が、それぞれの地域と直接的に交流するのが少ないと思います。そういう地域の特性を最大限に活かそうとすると、各地域に同じようなものを作って、全地域で均衡を保っての開発の方向性は正直難しいのではないかと思います。ですから計画には逆に、規模の小さい自治体、住民の方々の意向を組み込み、気持ちや意思などを反映させる必要性があるのではないかと考えます。2ページに移ります。これは、別の方向から今の社会現状の一般論として、小滝晴子さんは早稲田大学の方で、この方の著述より抜粋させていただいております。今の不

透明な時代、不確実性の時代に、なんで社会的目標を喪失してしまったか、一つの方向性が見えてくるのではないかということで書いてみました。これまでの科学技術の進展は、理屈なしに人間が幸せになれるものでありました。例えば、いろんな施設が出来れば間違いなく人間が幸せになり、理屈なしで幸せになりました。いろんな技術がどんどん開発されてきて、逆に小滝さんが書いてあるのは、科学技術が人間の思想を超越してしまったために、その技術を使って何をすればよいか、いつのまにか考えるようになったということです。例えて言うなら、「速い」ということは、速ければ速いほど人間にとっての「幸せ」かどうか判らなくなってきたというそういう時代になったということです。4番目、ビジョンやマスタープランにおける時間経過上の課題についてですが、これまでも、各市町村において総合計画を筆頭として様々なマスタープラン等、地域全体からの視点での計画が組み立てられてきました。これらの計画の多くが、時代の変化あるいは時間の経過、これは婉曲にいうと人間の心の変化とともに5～10年という時間という間隔で改訂されてきました。改訂ケースの多くが「今何をしていかなければならないか」に力点がおかれ、「どう変わったか、あるいはどう変わってきたか」には、あまり注意が払われていなかったと考えられます。このことが、結論としての施設整備を生むことになり、逆説的に施設整備が動機化しているという公共事業批判を導いている一因として考えられます。ですからこれからの計画は、昔の人がどういう考え方で、どういう思いを組み合わせ、どういう地域にしていきたかったのか、未来の人が考えることの出来る将来構想をつくるのが望ましいのではと考えます。5番、これまでの合併事例から、ビジョン構築に際して予測される課題ですが、合併協議に臨む各自治体は、財政などの課題を抱えながら自治体としての独立性・独自性を考究してきたものと考えます。その結果が、各市町村における総合計画であり、また実現するための各施策・事業を展開してきたと思われれます。一方で、市町村合併では特に財政面での課題を解決する方策としての役割の期待が大きいと思われれます。この2点から、合併前の施策・事業体系のまま新市に移行することは難しいと考えます。これを、単に寄せ集めにしますと、結局のところ自分たちのためにもなりませんし将来のためにもなりません。ここでは、妥協ではない1つの新しい市となった姿の中に、現在の各自治体の役割や個性の発揮の仕方と、そのための施策を考えるという姿勢を持つ必要があると考えます。ここまでのまとめたものが、前の方にあります。ここで、3ページに移らせていただきまして、構想のことを離れていただき、事務局から先程説明のありました、地域の心が計画に重要であるということは皆さまご異論ないと思います。心の話も精神論的な話が言われてきましたが、かなり科学的に解明されてきていて、そういうもの

が企業社会では活かされてきています。それが、課題解決のために役立つのではないかと考え、例示としてご紹介させていただきます。まず 1 つめに、脳科学分野における研究ということで、ちょっと構想とは違うかもしれませんが、ひとつは脳の構造が解ってきたということで、人間には左脳と右脳がありまして、右を直感脳、左を分析・理性脳といいますが、タバコを吸われる方がなかなかタバコを止められないのは、人間はまず右脳で思う、例えばタバコを吸う方は、まずタバコが好きと思います。左脳のほうに検証しにいきます。論理的に正しいかどうか検証します。そういう考え方の流れが来ています。どういうことかという、思うということなしに人間は納得することが出来ない、つまり、理由はなしで思うことが最も重要な動機となります。そういうことが、人間の行動・言動の醸成となっています。それから病気の様々な問題も心が大きな影響をしているといわれています。ここに例示2としてひとつの例なんですが、医学の用語でいいますと、水色の四角の真ん中に書いてありますが、心が変容すれば体も変化すると科学的に証明されています。それから問題解決の視点2として心理・精神科学分野における研究ですが、ヴィクトール・E・フランクルという精神科医で、ナチスのユダヤ人強制収容所の体験者がいます。この人が収容所にいる時に、自分たちが生き残るためにいろんなことをします。密告や横暴なんでもありの中で、それでも自分より弱い人間のために食事を分けてあげたり、代わりに労働に出たりあげたりしているという話をこの人は書いてあります。そこで、この人が見つけたものとして、人間というものはどんな瞬間もあきらめず、行動というものはその時に意味があったかどうかは言えないということ、歴史の時間の中で人間が生きていて役割を果たしているということで、結果として人間を尊いものであると見ることができます。特にそういう行為をした人は、そういう事を考えていたわけではないと思いますが、歴史の中で役割を担っていると思います。これはあくまで例です。4ページにいきまして、これが前の方の下の方なんですけど、心の分析をする時のやり方で、人間の心がどのように出来ているか考えたものなんですけど、多くの心理カウンセリング方法でやられています。ひとつは、今の自分を知るという過程があります。この自分というのは、ダメな自分というわけではなく、いかに出来ないかというわけではなく、どんな小さなことでも今出来ることは何か考える。それが、今の自分を知るということ。それともうひとつ右側にありますが、なりたい自分を知るというのは、出来るかどうか分からないけどやりたいものを見つける。これは、夢を持つということなんですけど、その2つを合わせると必然的に自分がやるべきことが見えてくるというそういう構造があるとのことです。その一方で、5ページに移させていただきます。また全然別の方向の話ですが、経営理論分野の研究ということで、企業の理念研究、企業経営

の研究は、今どのようなことをしているかご説明させていただきますものが、前の方に
でています。簡単に言いますと、自分が出来るものを売るという時代がありました。C A
Nという文字がありますが、自分が出来ることをやるという時代。でその後に、お客さま
のために良いものを作るにはどうしたら良いか考えてきた時代がありました。WANTと
書いてあります。W・A・N・Tとあります。それが市場を考える時代、つまりお客さんのこ
とを考える時代。そして、今いわれているのが、プロダクト・インでWILLと書いてありま
すが、自分らしさ、自分の役割を意味を確認する時代がきています。これのひとつの例
は、ある企業で会社の製品を買っているお客さんの15～20%ぐらいの人で、売上の
40%～50%ぐらいのものを買ってくれていることがわかりました。お客さんというのは、
一様ではなくて、やはり自分を理解してくれているお客さんがいて、自分もそういう方々
に何か提供したい技術や物があるという関係のことです。それが、企業にとっての自分
らしさということ。それを実践しているのが、カタカナで書いてあって申し訳ありませ
んが、ブランディングです。これは、ブランド構築ということで、自分の企業の価値を明
確にする行動ということで、ソニー、日産と多くの企業で実践されています。今回は、こ
の地域とか合併市町村をひとつのブランドとして捉えて、その価値を明確化することで、
住民や職員の方との価値を共有して対外競争力やイメージの強化を図ることがひとつ
の方法ではないか。これは、単に目に見えるものではない価値を生み出すのが肝心な
のではないかと考えます。この計画の方法・指針をまとめてみますと、6ページにまとめ
た結果となります。これまでの課題と問題解決の視点を入れ、地域づくりには心を込め
る必要があるということですが、ひとつの方向性としては、下にいく流れ、協議に参加さ
れる地域の皆さまの本当の動機、これは理屈ではなくて、これだけは未来に残したい
とかつくりたいといった思いが込められた計画である必要性があるということ。これ
は、具体的にはどういうことをやりたいかということですが、地域の住民の方々やオピ
ニオンリーダー、行政マンといろんな人々の能力や役割を活かした計画である必要
性があります。それから、地域づくりに心を込めるもうひとつの方向性ですが、今だけ
の時間だけでは成立してこなかった歴史を考えると、この計画が未来へのメッセージに
なるということ、それはどういうメッセージであるかということ、挫折しないで常に新しい目標
を持ち続けられる計画であること。それはどういう役割を果たすかということ、本当の意
味で未来の長岡地域の人々に役立つ計画であること。これは、やってあげるのではなく
て、未来の人が、昔の人がどういう風に考えてこの地域をどうゆう風にしたいと思っ
たのか見てもらって、未来の人自身がどうしたいのか考えてもらう材料にしたいとい
うことです。従って、計画の実態的面としては、考える過程が迎える計画であるとい
うことで

す。そういう考え方を基に、7ページに基本的な考え方の図があります。7ページは、心の取り入れ方を説明してあります。簡単に仕組みだけを説明いたします。先程説明いたしました何々をしなければならない考え方ではなくて、今出来る自分の発見、出来ること、出来るかどうかわからないけどやりたいことを見つけます。そうすると、なるべき自分の姿が見えてきます。WANTというなりたいものがあると、挫折をしたとしても、失敗したとしても目標を持ったままなので、失速をせずに行けるのです。WANTがないと、なるべき自分が今社会の中で出てきていないので、出来る自分しか今がないと、私は考えます。そうすると、出来ることしかないというのは、しか出来ない人間は考えて、だんだん悪い方向に考えてしまいます。ですから、この構図の中でいろんな地域の人々の考え方を集める工夫を考えると、この構図を作るうえでは重要です。ただ、出来るということは今までやってきましたいろんな施設整備や都市計画という物理的な物質的な面から出てくるのですが、なりたいというのは、気持ちの問題ですので、本当に地域の人々の気持ちを入れていく必要があります。そのうえで、なるべき自分を見つけます。今までの計画ですと、最初の段階で市場的に見て競争力があるかないかを、この段階で考えていますので、競争力がないと本当はやりたいことでもやらないということになってしまいます。やはり自分の満足に繋がりません。今回の計画の一番大事なことは、まず最初にWILLをどんな小さなことでも集めて、それが市場での競争力があるかどうか見極めます。もし市場より競争力がない場合は、逆に市場の競争力になるまでにどうしたら良いか、構造はどうしたら良いかという風に考えていく計画を作りたいと考えています。この結果のWILLを全部併せると、ブランディングというブランド、自分らしさの価値をまとめあげることが出来ます。それを使って、あるいはこれまでの合併に向けた8市町村のいろんな特性や材料を使ってどんなことが出来るか、後ろの方で考えていく流れとなっています。そういう図であります。続きまして、8ページに移らせていただきます。これは、一例でものすごく簡単なものです。どうやって動機をつくるかということです。これまでの計画というのは、あるひとつのビジョンを特性や課題を見て将来像を考えて、実践する方針を出して、行動を考えて、どんなことをやったら良いか考えるのですけれども、ある危険の一面があるのですけれども、この施設を作りたいと考えた時に遡っていけます。そうすると本当にやりたかった物は何か、将来の人が見たときに本当の動機がわからなくなってしまいます。そこで、すごく簡単なものなんですけれどもひとつの例示としては、どういうことかということ、地域の心を、これは特性を考えたり実現に向けた方針を考えたりすることとは全く別に地域の思いを持ってきます。物理的な側面からこんな事をした方が良いかなと考えますと、それと地域の人々がやりた

い事がどういうところであてはまるか、実践出来るか、逆に考えてきます。そうして必要なものをまた考えます。そうすると、おおもとはやりたいという気持ちやこれまでどういう事があったか考えた結果としてのことがでてきます。考え方を遡っていき、もしこの気持ちが、将来生きている人で変わった時は、この丸の場所をどんどん変えていきます。ただ、今生きている人が未来を考えて、こういうところになった方が良いという考え方は、この式で将来も見ることが出来る。そういったものが上にあるストーリーから動機付けを考慮した計画の考え方です。そういったものを考えまして、実際に10ページのところでどういうやり方をするかといいますと、先程御説明いたしました、なりたい姿となることの出来る姿となるべき姿の3つがあります。このところでは、ワークショップ、これはまちづくり市民会議というもので、いろんな形で市民の方の自由な意見を集めていこうという風に考えています。ただ全く何も材料がないと困りますので、事前の住民アンケートをとりまして、そこで何を考えているか筋道みたいなものを作ります。そして、本当のアンケートをとるわけですが、もうひとつは有識者、オピニオンの方の意見をとりいれまして、出来るだけ多くのなりたい姿を集めることで、これからの長岡地域のなるべき姿を集めようと考えています。そういう考え方に基きまして、将来構想の全体のモデルを示したものが19ページにございます。先程までお話いたしましたなりたい姿、可能な姿、なるべき姿、それからブランディングという自分らしさ価値の確立という計画の核となる部分が出来ます。この自分らしさの価値を実践していくための重点の実施項目は、どういうものがあるか一方で考えてあります。もう一方では、地域の行政の企画総合計画専門分野の方々から今の8市町村の考えている地域の訴求点や特性を検討してもらいまして、ブランディングとは別個に出していただきます。そして、ブランディングと地域の訴求点を合わせると各地域の整備方針、これは単に8市町村バラバラの方針ではなくひとつの市となった自分らしさ価値の実現のための各市町村の整備方針というものが出てきます。先程の実現重点項目と地域の整備方針を合わせて、各分野で何が出来るかを考えていただく。これは、各分野の分科会の人達にも参加していただき考えていくということです。この後ろの方に、この考えのモデルをひとつ説明してあります。簡単に御説明させていただきますと、最初の20ページは、これまでのなりたい自分と出来る自分となるべき自分の関係を示してあります。こういうものをまとめて、ひとつの新市将来構想を作っていこうというひとつで、地域はどういうことで生きるかという、21ページのところにあります、例えば「今も残る、はさ木原風景と郷土文化」それと「元気に満ちた米産地」というブランディング価値を合わせると、ひとつの地域整備方針として「人々が行き交う生きた文化としての米産地づくり」というものが出てきます。

一方で、重点実現項目というそこにある3つのものを考えますと、町活動展開例としてはどんなものがあるかという、環境保全の徹底、郷土文化教育の充実、郷土文化を活用した体験観光施策、棚田の保全というものが出てきます。それを8市町村分集めたものを体系化したもの、その下にあります活動の施策の一覧となっております。これで構想全体の流れが完結するということになります。以上で終わります。

事務局(北谷事務局長)

ありがとうございました。ただ今説明のありました内容につきまして、委員の皆さまよりご質問等がございましたら、よろしく申し上げます。

ちょっと難しい説明になりましたが、肝心なのは住民ひとりひとり、あるいは、しいてあげると我々長岡地域がどうなるべきかということが大前提にあるのではないかと。今までの受動態で、合併したら何をしてくれるかではなく、合併を契機に何をしていくんだということが大事なのであります。そのためにも住民へのアンケート調査、地域アンケート、有識者ヒアリング、まちづくり市民会議などで、たくさんどんな細かな事でも良いから将来なりたい姿、なりたい物をたくさん集めてきます。その出発のためにも、後程また説明いたしますが、住民の意向、住民の皆さま方が新しいまちづくりに参加できる体制をとっていききたいと、我々事務局とコンサルで今まで真剣に話し合った結果で、基本的な考え方です。もちろん基本的な考え方は、今現在このようにやっていきたいということで、今後とも皆さまのご意見を反映させながら、将来構想の策定についても手法についても検討していきたいと思っております。今はこのようにやっていきたいという説明であります。

委員(村上雅紀)

質問よろしいでしょうか。

事務局(北谷事務局長)

はいどうぞ

委員(村上雅紀)

大変ちょっと学がないとわからないような、個人に当てはめた場合とか企業にあてはめた場合は、ある程度ヒューマニズム的な部分は理解できますが、まちづくりにあてはめると思想的な部分を書いてあり、否定するわけではありませんが、もっとわかりやすく出来ませんか。第1回が終わって、住民に説明してくれと言われても私は出来ませんよね。これは、それなりの学識がある方がやればそれなりに理解できるのでしょうか、私が説明を聞いた中ではこういう言い方でどうかわかりませんが、バックでありますレイヴィトンというブランドがありますよね、それになることが幸せなのではないでしょうか、そうなりなさいといっているようにも聞こえるのですけど、持たなくてもたくさん幸せの方もいます

し、そういう風に私が捉えているのが間違っているかもしれませんが、そういう風に聞こえます。質問事態もよくわからない感じになりました。難しくよくわからないのですけど。

委員(豊口協)

非常に理論立てて説明してあるのですが、理論構築がかなり難しいと感じました。ひとつの枠をつくり、その枠の中で、どんどんストーリーを作っていくのですが、逆に言えば、次に我々が何をすれば良いのか、どうすべきかがわかるものなのですが、特にこの中のWANT、CAN、WILLというのは、人間の意思であり、WANTはなりたいた、CANは出来るよ、WILLはなさねばならないという意味であり、一緒にしてやっていき住民の意思をこの中に入れていく。こういう私もこれを説明せよと言われると難しいですね。単純ですけど感想です。

事務局(高橋次長)

事務局ですけど、実際の細かな作業手法として私達が実際にやっていく際には、こういうことやっていくということで、基本点な考えは行政サイドで一方的に作っていくわけではなく、あくまでも住民の意向をいろんな形で取り入れながら、出てきたものについて小委員会で議論し、方向を出していく。当然その中で、行政サイドの考え方も入ってくるというのが基本的な考え方です。それらを、実務的に私たちが作業手順として説明しますとこういう形になるということで、あくまでも基本的考えを申したわけで、先程事務局長も申しましたが、具体的なやり方について、小委員会で、段階段階にお話していくわけですので、その段階でご意見をいただいて、トータル的にまとめていく考え方でございますので、どちらかという私たちが具体的な作業を進めるにあたりの手法の説明だと確認していただければ良いかと感じています。説明が難しくなったことについて、私も反省しておりますけど、やり方については、かなり工夫したやり方ですのでこれだけでやるということではないので、基本的な考え方をご説明させていただいたわけですので、その考えの中でご了解いただければと思います。以上です。

委員(山本俊一)

基本的な考え方ということですけど、尚更皆さまがわかりやすい説明をお願いします。皆さまがわかりやすい進め方をお願いします。

事務局(高橋次長)

承知しました。

委員(野田幹男)

私も聞いていて言わんとするところが、左脳右脳の説明から始まり、そして精神文化

といき、最後の部分にくるとなるほどなとしないでもないのですが、我々も地域に帰って説明するにも、まして造形大学の学長さんもちよっと言われれば、皆さまが言われるように、精神文化や未来像など構想なのでそれはそれで良いのですが、それを我々が住民に説明出来るように、平たく日常語を使って説明していただきまして、アンケートをとるにしても地域の皆さまにわかりやすいものにしてもらいたい。アンケートをもらった方が、これは何なんだというものになってしまわないようにしてもらいたい。

事務局(高橋次長)

承知いたしました。

事務局(北谷事務局長)

これは後程ですね、議題のひとつとして住民の意向の確認方法として出てくるのですが、今我々事務局が申したのは、住民の意向をどうゆう風に整理していくかの手法について、少しテクニカル過ぎた説明でしたのでわかりづらいと思いますが、現在我々がこういうテクニックで整理していきたい、皆さんの意向を将来ビジョンにこういうやり方で反映させていきたいんだと、ご説明したわけで、だから皆さまにこれが全てだというわけではなく、今現在こうして行っていきたいことをご説明させていただいた主旨ですので、この後の住民の意向調査の云々、手法の捉え方、住民の意見の反映方法などをまずご説明していただきまして、またその時点で、この場所に戻りたいと思います。それでよろしいでしょうか。

委員(高野徳義)

ひとつあります。これは家に帰ってよく勉強しますが、目の良い方なんです、あの画面が見えなかったのですが、皆さまあの画面が見えましたでしょうか。見えなければ、意味があったのでしょうか。

事務局(北谷事務局長)

私も近眼で全く見えませんでした。こちらの資料の方だけを見ていました。次回からの課題とします。たいへん申し訳ありませんでした。

それでは、一旦先に進めさせていただきます。

それでは、議事の方に入らせていただきます。本日の議題は、次第にありますように1番目の「委員長及び副委員長の選任」と2番目の「住民参画の手法について」となっております。まず1番目の議題である正副委員長の選任でございますが、資料4をご覧ください。ありましたでしょうか。小委員会規程第4条にありますように、正副委員長については委員の互選により選出することとなっております。まず委員長の選任からお願いしたいと思いますが、どなたかご意見ございませんでしょうか。

委員(長谷川孝)

小国町の長谷川でございます。先程コンサルの方から懇切丁寧にご説明いただきましたが、100分の99はわかりませんでした。ここに学識経験者の豊口先生がおられますので、委員長になっていただきまして、私達に懇切丁寧にお教えいただくのが最も望ましいのではないかと思います。お願いいたします。

(拍手)

事務局(北谷事務局長)

他にご意見ありませんし拍手もいただいたので、豊口さんに委員長をお願いするということによろしいでしょうか。

(拍手)

ありがとうございました。皆さまのご賛同をいただきましたので、委員長には豊口委員さんをお願いしたいと思います。

続きまして、副委員長について、どなたかご意見ございませんでしょうか。

委員(佐々木保男)

長岡市の二澤助役さんを推薦いたしたいと思います。

事務局(北谷事務局長)

ただ今、佐々木委員から副委員長に二澤委員ということですが、どうでしょうか。

「異議なし」の声

(拍手)

事務局(北谷)

ありがとうございました。それでは、副委員長には二澤委員をお願いいたします。恐れ入りますが、正副委員長に決まりました御二方より、それぞれ一言ずつご挨拶をいただきたいと思いますので、豊口委員長よりお願いします。

委員長(豊口協)

大変責任重大な委員長ですが、ただ私がこの小委員会で嬉しかったことは、初体験の仕事であることです。初体験の仕事に挑戦出来ることは、これ程嬉しいことはありません。そう意味では、大変光栄に思っています。初体験の仕事で委員長をやるというのは、責任重大ですが、全国で様々な合併討論がなされていますが、他の市に参考になるよう特筆すべき成果が生まれるよう小委員会として進めていきたいと思っております。

微力ではございますが、ひとつよろしくお願いします。

事務局(北谷事務局長)

ありがとうございました。それでは副委員長の二澤委員をお願いします。

副委員長(二澤和夫)

今、副委員長となりました二澤でございます。この小委員会の規程を見ますと第5条第4項に副委員長は、委員長を補佐すると書いてありますが、とても補佐出来る能力があるように思えませんが、長岡市が合併の中心だという観点から推薦いただいたと思います。委員長が今考え方を述べられたわけですけど、補佐していき立派な計画が策定出来るようになっていきたいと思いますが、皆さま方からもご指導の程よろしくをお願いします。

事務局(北谷事務局長)

ありがとうございます。委員長が決定しましたので、今後の進行については豊口委員長からお願いします。また、お手数ですが、席を移動していただきますようお願いいたします。

(委員長の座席を移動)

委員長(豊口協)

それでは、時間もありませんので委員長として進めていただきますが、よろしく申し上げます。個人的な事で申し訳ありませんが、花粉症になりましてお聞きづらいかもありませんがお願いします。早速ですが、2番目の議題である住民参画の手法について、ご協議いただきたいと思いますが、まず事務局より説明願います。

事務局(高橋次長)

それでは、説明させていただきます。お手元にお配りしてあります資料NO.5と右肩に書かれてあるものをお出してください。新市将来構想の策定にかかる住民参画についてというものでございます。住民参画の手法については、第2回の協議会でも項目についてご説明してありますけれど、ここでは少し具体的に説明させていただきまして、小委員会の委員の皆さまのご意見をお聞きし、具体的な実施を行うものであります。住民参画にかかる項目としましては、1番、住民アンケート調査、これは、2番にあります地域アンケート調査、本調査に入る前の事前調査の位置づけであります。3番有識者ヒアリング・アンケート、次のページに有りますが、4番まちづくりワークショップ、以上4つを住民参画の項目として考えているものであります。それでは、順次ご説明させていただきます。まず、1番住民アンケート調査、事前調査と呼んでいるものですが、これは2番にあります本調査を実施する際の問題点を洗い出すもの、4番にありますワークショップでの議題を提供するものとした考え方の中で、まず実施したいと考えています。具体的には、訪問留置調査と申しまして、調査員が直接回答していただくお宅に

訪問しまして依頼し回答していただく調査です。対象としましては、 に書いてあるとおり20代、30・40代、50代以上の3つの年齢区分に分けて、年齢別から男女別、更には市町村別8つありますが区分します。合計240人のアンケートを訪問して出来ると考えております。これを、本日の小委員会後早め実施したいと考えており、平成15年3月中旬と表記されてありますが、小委員会後早めに行いたいと考えております。内容としましては、後程詳しくご説明いたしますが、市町村合併に対する意向、問題点、要望、行政に対する意見など、これらを中心にアンケート調査をとりたいと考えております。次に2番であります地域アンケート調査、本調査と呼ばせていただいているものですが、事前調査を参考にしまして、ある程度まとまった数のアンケート調査を、郵送により実施したいという考え方です。方法としましては、8市町村の住民から無作為に抽出した方々に対し郵送で配布し、回収するという考え方です。対象の人数につきましては、8市町村全体で7,000人を予定しています。現時点で、回収の見込みは半数と考えておりますので、3,500人のアンケート回収を事務局としては考えております。このアンケートの時期ではございますが、1番の事前調査が集計後、本調査を実施したいと考えておりますので、4月の中旬頃には実施出来るかを見込んでいます。本調査の内容でございますが、事前調査の結果を受けて、地域住民の総意としての市町村合併に対する意向、問題点、要望、行政に対する意見などをお聞きしたいと考えております。それから、3番、有識者ヒアリング・アンケートでございますが、この部分の詳細については詰めきれれておりませんが、基本的には対象者へ直接インタビュー形式によるヒアリング・アンケートを実施したいと考えております。対象者として考えている方々ですが、日頃8市町村の中で地域活動に携わっている方々を予定しております。なお、どのくらいの方々からインタビュー形式でやるかは、これから詳細検討して、実施したいと考えております。今時点では、件数について調整中ということです。時期につきましては、地域アンケートと同様に4月中旬に実施したいと考えております。以上1番、2番、3番これによって、地域住民の方がどういった実現したい将来像をお持ちなのか、8市町村がひとつになった地域にどういった実現可能な将来像として導かされるか、これらのことを3つのアンケート中からある程度傾向、方向、考え方を出したいと考えております。次のページでございます。まちづくりワークショップでございます。これにつきましても2回目の協議会の本体の方で、実施についてのご説明させていただきましたが、ワークショップの目的でございますが、先程説明いたしましたアンケート調査等によって、いくつかの将来像が出てきます、それらをこのワークショップによって、実際に8市町村の住民の方々から集まっただきまして、テーブルを囲む中で、内

容を再検証・確認していただき、そして将来像を検討していただくことがワークショップの目的であります。次に、どれくらいの方を予定しているかという点、全体として52名を現時点で考えています。52名の内訳ですが、それぞれの市町村から推薦していただく方を、各市町村4人と考えておりますので32名となります。一般公募の考え方の中で20名を考えております。これは、協議会だより等で広報していきたいと考えております。なお、各市町村の広報誌が間に合うところは、それらで広報したいと考えております。現在、募集している最中ですが、例としまして、下の四角で囲ったところですが、7人がテーブルに座った形でやるという図になっていますが、7人の住民の方々の中に1人のコーディネーターの方が付くという形です。52人を7人のテーブルに分ければ、いくつかのグループになるわけですので、全体をとりまとめるファシリテーターを、1人別立てで置くという考え方でございます。これらの考え方の中で、4月、5月までの間に3回程度ワークショップを開催したいと考えております。なお、1回目のワークショップの予定は、4月17日(木)夜の7時から長岡市役所の会議室で行いたいと考えております。このワークショップによって、実現すべき将来像がある程度ははっきりしてくると考えております。もちろん、アンケートの結果、ワークショップの結果を踏まえ、小委員会の委員の皆さまのご意見を聞く中でまとめていくという考え方でございます。今説明いたしました1番から4番のそれぞれどのように関係してくるか、それから期間的なこともでしたが、スケジュールがどのようになるかは、資料NO.6の中にありますし、事前調査の調査票につきましては、資料NO.7として皆さまにお配りしてありますが、これにつきましては委託業者から詳しく説明させていただきます。

コンサルタント(金子)

それでは、資料NO.6ですが3月中に住民アンケート調査を実施します。これは、事前調査ということであるような設問の答え方を確認いたしまして、4月に実施する全体の地域アンケート調査に適用していきたいと考えています。それともうひとつの役割として、ワークショップを行う際のひとつの材料として地域の方がどうしているかを属性といたしまして年齢別、市町村別、男女別と240人調査いたしまして、そういう方々がどのように考えているかをワークショップに反映させていきます。次に有識者ヒアリングですが、3月中に2,3人程度インタビューさせていただき、4月17日のまちづくりワークショップの材料とさせていただきたいと考えています。資料NO.7ですが、住民アンケート調査票として、現在案として考えています。訪問留置調査をする時は、空白欄がもっと広がる予定です。質問だけを列挙した形で提示してあります。質問がまだ完全で固まっておりません。ページをめくっていただきまして、4の3)について全部の項目が入って

いるわけではありませんので例示として挙げてあります。各市町村の調査を行い、順次整理していきたいと考えています。ただ、今回の事前調査で、地域の人だけがわかる特性や資源がでてくる場合がありますので、29番のその他に調査員が聞き取りながら具体的に記入していただき、本調査で使えるようにしたいと考えています。

委員長(豊口協)

ありがとうございました。ただ今資料NO.5から資料NO.7までご説明いただきましたが、資料NO.5から順次質問を受け付けたいと思います。それでは、資料NO.5の新市将来構想の策定にかかる住民参画について何かございますでしょうか。

この小委員会については、ざっくばらんに話をしてもらうのが良いのではと思います。

委員(北村公)

NO.5ですが、ワークショップを行うということですが、わかる人はわかると思いますが、年寄りから子供までもわかるよう、この場で詳しく説明してもらった方が良いと思うのですが。

委員長(豊口協)

こうゆう引用は、非常に難しくテクニックが必要ですね。どのようなレベルで行うかも重要なことです。

委員(山本俊一)

ワークショップ3回程度で、実現すべき将来像を導き出すということですが、3回程度で果たしてまとまるのかと感じられます。そのあたりはお聞かせ願いたい。

委員長(豊口協)

事務局お願いします。

事務局(高橋次長)

3回程度と案を提示してありますが、実際行ってみて、回数が増える可能性も考えています。現時点においては、7月末までに最終案をまとめなければなりませんので、3回程度が妥当ということで案としてお示ししております。

委員長(豊口協)

他にございませんでしょうか。

副委員長(二澤和夫)

各市町村で合併に向けた任意のグループがあると思われませんが、その人達の意見等はどのような形で汲み上げていくのでしょうか。アンケート関係は、個人としての考えでありますし、合併反対のグループの意見もあるかと思われませんが。

事務局(高橋次長)

基本的には、合併賛成反対の議論ではなく、合併したらどのようなまちづくりをしていくかを考える議論を行っていきますので、一般公募枠の中にそのような方々が、参加されていき議論していただくのは特にかまわないと考えていますが、グループの意見として将来構想策定に反映させていくという考えは、現時点では考えておりません。委員の皆さまからこのような団体の意見を聞くべきだとお考えがあるようでしたら、議論していただくのは事務局としてはかまわないと考えております。

委員(小池進)

三島町でございますが、三島町ではまちづくりビジョン策定委員会を昨年の暮れに作ったのですが、各団体の代表が参加しているわけですが、第4次総合計画を見直しながら合併した時にどのようになるのか、加えるものがあるか、落とすものがあるかなどを議論して、隠れたものはあるか、宝探しのようなことをやっているのですが、我々が知らなかったすばらしいものがたくさんあるのですよね。そういうものを整理して、合併議論にどう活かしていくか課題となっています。いろいろな意見が出ていまして、どのようにまとめていくかが仕事なんです。まとめてある程度のビジョンの策定した場合に、それをそれからどうしていくか考えていき、これからの在り方をみんなで考え、お願いするところをお願いしながらやっていきたいとそんな風に考えています。

委員(山本俊一)

またちょっと質問なんです。ワークショップの中でファシリテーターというのがありますが、この方はどのような方で、どのような事をするのでしょうか。

事務局(高橋次長)

今の質問につきましては、担当が参っていますので少し詳しく説明させていただきます。

小疇先生

新潟市から参りました小疇と申します。全県の仲間が集まりまして、NPO法人まちづくり学校を作りまして、そこで住民参加のまちづくり、運営、企画というものをやっています。今回、ワークショップのお手伝いを、私を中心にやらせていただきたいと思います。先程お話がちょっと出ましたが、今までこういう構想でありますと、ほとんど専門家が出てきてつくられました。都市計画の専門家あるいは役場の担当者が作られ、住民の方は最後に意見を聞くという参加があったと思われ。考えてみますと、住民とは住むプロだと、あるいは暮らすプロなのです。そのプロの話をお聞きせずに構想が出来るのだという中、地域の人々の意見をきっちり聞きながら策定しようという考えになってきてると思っています。ただ、そういう方々はそういう場に慣れておりません。何を話したら良

いか、先程から出ていますけど言葉がわからないということになりますと、そういう方々が参加しざっくばらんにお話していただけるには、どのようにしたら良いかということになります。その問題を解消するのが、ワークショップの一番の目的であります。いろいろな方がお集まりして、口の字に並べられて、さあお話くださいといってもなかなかお話出来ません。1人声の大きい方がいらっしやると、その方だけがしゃべって会が終了してしまう。7人のグループに分けて、やわらかい雰囲気ですぐ笑い声がでながら、お茶やお菓子を食べながら、そういう会でざっくばらんの話し合いをしたい、意見を引き出したいと思っています。やはり一番重要なことは、何の為にやるかということで、思いを共有する、自分らが言ったことがどういふかされるのか、そこではっきり示される。それには、どのような資料があって、あなた方がなぜ選ばれたかをはっきりする。更に、何回に分けてどのように進めていくかきっちりお話しして進めていくのが重要だと思っています。今回の3回のワークショップには、そのことを肝に銘じてやりたいと思っています。出来れば、私共まちづくり学校のメンバーが、ファシリテーター及びコーディネーターのお手伝いをしながら進めていきたいと考えています。私共が、まちづくり学校で使っているファシリテーターとコーディネーターの言葉が建設技研さんと逆の使い方をしていまして、ファシリテーターとは意見の引き出し役で各テーブルにつく。そのファシリテーターは、意見を言わない。どうやったらその場がほぐれて、参加者がどんどん意見を言えるようにする役目をファシリテーターと呼んでいます。コーディネーターとは、全体の会の様子を見ながら各テーブルの様子を見てファシリテーターへ忠告する。そのようなことを、私達は呼んでいます。

委員長(豊口協)

ありがとうございました。他に何かありますでしょうか。

委員(野田幹男)

資料NO.5の住民アンケートの訪問留置調査というのがありますが、事務局の方で無作為で抽出し、行うということですか。

事務局(高橋次長)

そうです。少し具体的にお話させていただきますと実際に訪問するのは、委託業者の方でさせていただきますが、8市町村の中でこのような条件で選ばれたお宅に訪問させていただきます、まずアンケート調査の御依頼をさせていただきます。その場ですぐに記入は出来ませんので、その場にアンケート調査票を置かせていただきまして、5~7日後に回収しにくるお約束したうえで、再度おじゃまさせていただきますと、そして、その時に調査票を拝見させていただきます、未記入部分等の聞き取りをしながら精度の上げ

た調査票を回収させていただきたいということです。以上が訪問留置調査ということの説明です。

委員長(豊口協)

調査は、人数が限定されておりますが、場合によっては人数が増えるとかあるのでしょうか。

事務局(高橋次長)

今時点では、このように考えておりますけれども。

委員(野田幹男)

そうとう関心がないと、年齢層もありますけれども皆さまが理解して記入出来るとは思えないのですけれども。

委員(朝日由香)

まちづくりワークショップを導入することやアンケート調査をすることは、手法として住民の意向を知るには良いことだと思いますが、私の思い入れもあるのかもしれませんが、まちづくりワークショップをやるのであれば、各市町村でそのことに関して行っていき、最後に50人で集まってまとめるというプロセスが大事なのではないかと思うのですが。今回は、3回ということですがだいぶタイトであり、そのへんの成果というものをお聞かせさせていただきたい。

委員長(豊口協)

各市町村では、グループで動いていると思うのですが。

事務局(高橋)

全てではないと思います。先程お話のありました三島町さんのように先行してかなりの規模でおやりになっているところもありますので、おそらく各市町村のワークショップのメンバーの中には、推薦枠でそのような方が選ばれるかと思われませんが、必ずしも全ての市町村でそのような動きがあるわけではありません。

委員長(豊口協)

そうしますと、危惧されているのが多少緩和されますね。

委員(朝日由香)

はい、かなり短期にやられますので、そのへんの情報が十分積み上げられるのかということとプロセスが気になりましたので。

委員長(豊口協)

非常にタイトということなんですよ。

委員(北村公)

前回の協議会でも話をしましたが、この期間で出来るのかなと感じられます。長岡地域の一員として考えていってくれと言われましたが、栃尾市の住民代表として出てきているという現実があるのですよね。ここで、皆さまとお話したことを、また栃尾へ持ち帰って、そこで討論しなければならないことが現実問題としてあるわけなんです。それを考えますと、地域の中でワークショップをすることもあるかもしれませんが、議員の方もいらっしゃいますし、4月は統一地方選挙もあるわけですし、そういうことを考えますと任意協議会の中でかなり激しく動かないといけないと思います。ワークショップもヒアリングも良いと思いますが、問題は各市町村で長岡地域の一員なんだよと知らず作業をしないといけないと思うのですよね。その手法の中で、このようなことを行うのであれば良いと思うのですが、そのへんを皆さまと考えていきたいと思います。

委員長(豊口協)

市町村合併ということで、我々の作業は一つの時代を創っていかなければなりません。考えも地球規模で考えていく必要性があるのではと思います。今、生活があるわけですけど、それを超えた次元の考えでないと話が進まないと思われまます。

それでは、資料NO.6に移ります。

委員(村上雅紀)

改めて、この小委員会の位置付けがよくわからないのですが、事務局の方で手法等わかっただけであれば良いと思うのですが、このスケジュールを見ても起案としてあがってはくと思うのですが、小委員会の意見をどのように汲み入れるのかと思います。決まりきったルールの上を走っているような気がします。

委員長(豊口協)

私の思案なんです、今日は1回目ですので、どのような規模のまとめ方をしていかなければならないかわかりませんが、まとめるにあたっては、へたをすると毎日か毎週行っていかなければならないのかと感じています。まとめるにあたって、皆さまの意見をたくさん出していっていかなければならなくて、そして核の部分を作成していく。それを、委託業者からまとめていってもらおうと考えています。ですので、自由な意見をどんどん出していただきたい。

委員(村上雅紀)

そのへんが見えなかったです。

委員長(豊口協)

事務局どうでしょうか。

事務局(高橋)

まったくそのとおりです。資料を出さずに行くということもありますけれども、事務局としては、ある程度進めていかなければならないことがありますので、期間内にまとめる基本点な考え方が、この小委員会で他にあるようでしたらそちらの方でも特にかまいません。現実的には、住民参画の部分を協議していただきたい。事務局も1つの基本的考え方としてご提案させていただいたというふうにご理解いただきたいと考えています。

委員(村上雅紀)

それに対して反対ではないのですが、今後忙しくなるということですね。

委員(高野徳義)

余裕があれば、委員の皆さまに各市町村のよさがわかりあえる場にしていきたい。山古志だけでも良いので視察に来ていただいて、良さを共有してもらいたい。環境等が違う地域が、ひとつになるわけですので、生活環境のレベルの違うことを皆さまに納得してもらうのにどのようにしたら良いかと考えているところなんです。日程の余裕があれば是非とも視察も考えていってほしい。

委員長(豊口協)

先程、UFJさんからご説明がありましたが、WANTとCANとWILLの部分がありましたが、先人が創りあげてきた文化、伝統等が否定できない事実としてあるわけです。現存している文化と伝統を地域社会の中で大切にしていき、次に何をしようか。それらのものを認めて、一緒になってどのようなまちづくりをしていくか、それを具体化させようという手法なんですよ。山古志村いいところですね。四季の変化を感じられいろんなことが考えられる場所ですよ。

委員(高野徳義)

自分は、そこがよい場所だと思うんですよ。

委員長(豊口協)

おそらくどなたもそうだと思いますよ。時間もだんだん押してきましたので資料6のスケジュールはよいですよ。資料7をご覧ください。中身を精査していき、このよう内容の案としていくということですよ。よろしいですよ。それでは、資料8にいきます。これは事務局お願いします。

事務局(高橋次長)

それでは、5番のその他にはありますが資料NO.8現況調査について(案)についてご説明させていただきます。先程、山古志の委員さんからお話がありましたが、将来構想策定については、今を知ることが大切であるのは当たり前のことですが、そのために

いろいろな地域からワークショップにお集まりいただき、それぞれ地域の実情を踏まえたいうえで将来構想を検討していくことになろうかと思いますが、ワークショップのメンバーが全員それぞれの地域に行って、1日で全てがわかるかどうかは別として行うのもひとつの方法ですが、ここでは地域の現況調査を、ある程度の基本事項で一斉に調査したいと考えています。調査項目(案)が2ページ目に載っていますが、自然・社会環境から住む環境、働く環境、学ぶ環境等、いわゆる基本的な項目についてここで調査したいと考えています。この調査した結果をある程度まとまった形で、ワークショップに出させていただきます、ワークショップの議論に役立てていきたいと考えています。ワークショップの議論だけではなく、皆さまにもお示ししていきたいと考えています。将来構想策定にあたっての基礎資料にしたいという考え方でございます。まず、これらの基本項目について現況調査を行います、資料を見ていただいたうえで、他の項目について調査して欲しいご意向があれば追加調査することは特に支障はないと考えています。これらの調査につきましては、出来ましたら直ちに調査に入らせていただきまして、4月の協議会、1回目のまちづくりワークショップには、資料としまして提示させていただきたいと考えておるものでございます。説明は以上でございます。

委員長(豊口協)

ありがとうございました。ただ今資料8について説明がありましたが、この点について何かご質問ありましたらお願いします。

事務局からこのような形で事務を進めてもらいたいと思います。

今日、お手元にお配りされました資料で、WANTというのがありましたが、この合併小委員会では、皆さんいろんな夢をお持ちだと思うんですね。市町村合併が近くなると、隣の新潟市が政令指定都市を目指すことになりましたが、おもしろいことで新潟市が政令指定都市になると県庁はいらなくなんです。だいたい政令指定都市になると県庁はいづらくなるんですね。肩身の狭い思いをするんですね。それならば、思いきって長岡市に県庁をもってきてみてはいいのではと思いますね。土地もいっぱいありますから可能性はあると思いますよ。市町村合併においては、昔から新潟県の中心は長岡市であったと歴史からわかりますよね。新庁舎がどこになるかわかりませんが、交通の利便性を考えて行えば、可能性は充分あると思いますよね。そうやって、皆さまが持っている先人からの文化遺産と夢のあることを考えていけばすばらしい将来構想が出来ると思うんですね。今、環境の時代だといわれています。環境とは何かということお互い同士が認め合うということなんですよ。ITの時代にコミュニケーションがなくなってきましたが、世界的にみてITの認識が違うんですね。日本では、ITをインター

ネットだといっているのですが普及率は22位であります。香港、シンガポールなどはベスト10にはいっているんですけど、この違いは、日本ではインターネットを日本語で行っているのが原因なんですよ。コミュニケーションを行う場所で、日本は追いつけなくなっているんですよ。アメリカのIT戦略は、当初から世界を相手に考えていたんですよ。そういうアメリカの世界戦略に対抗していくには、どのようにしていくか、コミュニケーションひとつとっても大事だと考えていく必要性があります。市町村合併はたいへんなことですが、やっていかなければなりません。まだ時間もありますので何かありましたら。

委員(外山康男)

豊口先生のわかりやすいお話をありがとうございました。長岡市の規模が大きいので中心は長岡市になると思われませんが、目標をしっかりとっていかないと、特に7市町村はそれに対してどうしていかなければならないかとしっかりしておかないと、対住民に説明が出来ないと感じました。事務局が説明したとおりに、ひとつひとつこなしていかないとだめだと思います。心配していてもしょうがないと感じます。前に進んでいき、最終的には住民の意向をどのように汲みこむかと思います。事務局にはどんどん進めていくて欲しいと思います。

事務局(北谷事務局長)

事務局からお話させていただきます。先程、村上委員さんからご質問がありましたけど、たいへん忙しい中お集まりいただいたところですが、議論の場ではなかったというのが事実かもしれません。ですが、説明させていただいたことは、事務局が新市将来構想策定の手法のやり方、住民へのアンケート、住民の意向をどうやって行っていくかを提案させていただいた会でしたので、肩透かしをくったような気がしたと思われませんが、我々事務局としては、この小委員会は、今日お諮りいただいた、ご了解いただいたことを行っていき、住民がこう考えている、ワークショップではこういう意見がでたことを、事務局がまとめて、この小委員会の舞台に載せて、それについて、見附が今までやってきた観点からこのへんは違うねとかということ、議論していく小委員会だと認識していますので、住民から出てきた意見を事務局がまとめて、素案の素案をご審議いただいた後、協議会へあげるのが小委員会の設置の目的であります。今後ともご理解とご協力をお願いしたいと思います。以上です。

委員長(豊口協)

今回、内容豊かな資料を出していただき、ありがとうございました。こういう資料が出てくると議論が活発になります。今日は短時間ではございましたが、非常に良いご意

見をありがとうございました。また今後ともよろしくお願いいたします。

午後8時28分終了